

平成30年度第1回秋田市小・中学校適正配置推進委員会 会議要旨

日 時：平成30年5月22日(水)
午後3時30分～午後4時20分
会 場：秋田市役所5-A会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

○事務局から平成29年度第4回秋田市小・中学校適正配置推進委員会の内容について報告した。

4 議 事

(1) 秋田市小・中学校配置素案について

適正配置推進委員会におけるこれまでの検討を踏まえ、教育委員会として策定した学校配置素案について、内容を説明した。

〔事務局説明のポイント〕

- ・今年3月30日に公表された最新の社人研推計では、2040年の秋田市の人口総数が、22年国勢調査ベースで235,500人だったところ、27年国勢調査ベースでは244,726人となり、前回より9,226人増加という結果となった。
- ・本市への移住者数は年々増加しているほか、合計特殊出生率も増加傾向にあり、人口減少の傾向に歯止めがかかるよう、今後も市として人口減少対策に最大限努めていくこととしている。
- ・こうしたことから、これまでは社人研推計に基づく児童生徒数の見込みで将来の学校数の目安を検討してきたところであるが、最近の人口動向も踏まえつつ、市の政策との整合を図るため、人口ビジョン目標に基づく児童生徒数の見込みも学校数の目安を算出する前提に加えることとした。
- ・これにより、人口ビジョン目標による児童生徒数を上限とし、社人研推計による児童生徒数が下限となるイメージである。
- ・この2つの考え方により、秋田市総合計画の7つの地域ごとに児童生徒数を設定し、これを望ましい学級数である18学級の場合の学級編制人数の上限で割り、学校数を算出した。
- ・次に、実際には学級編制人数の上限よりも少ない人数で学級編制している例が多いことや、人口減少対策の効果による児童生徒数の上振れ分を考慮することなどから、小数点第1位を切り上げて学校数の範囲とした。
- ・そして、通学時間や距離、地域や学校の状況などの要因を考慮して、最終的に各地域の小・中学校数の目安（範囲）を定めた。

〔委員からの意見等〕

- 委員 資料1-2の4ページの「4 地域ブロック別の学校数の目安」で、南部地域の中学校は将来の目安が「3校～2校」になっているが、資料1-2の9ページの表3では、2040年の南部地域の中学校数は2校程度となっている。数字の整合性は図らなくてよいのか。
- 事務局 資料1-2の9ページの表3は、将来の生徒数を18学級で割って2校程度としているが、南部地域には現在、御所野学院中学校があり、この学校は、地域の通常の学校という性質に加え、全市から入学できる中高連携特認校という性質もあることから、これを考慮して特例的に1校を追加し、「3校～2校」としたものである。
- 事務局 御所野学院中学校を加味して3校～2校にしているのは、南部の特殊事情である。しかし、混乱や誤解を招く可能性があるとするれば、説明に工夫が必要かもしれない。ご意見を参考にして、事務局で調整したい。
- 委員 2校程度の「程度」という言葉が不明瞭であるように感じる。表現を再考すべきでないか。
- 事務局 これまでの検討の中で、この表現を使用し幅を持たせてきたものだが、この表記についても事務局で検討したい。
- 委員 4ページに「模式図」という言葉が使用されているが、あまり一般的ではないのでないか。単に「図示したもの」というような表現で足りるのではないか。
- 事務局 模式図という用語自体は存在していると思うが、一般的な使用にはなじまないかもしれないので、この部分はシンプルな表現に改めたい。
- 委員 資料7は、保護者にいろいろな想像をさせてしまいかねないので、使用の仕方に気を付けないといけないのではないか。
- 事務局 この資料は現在の小・中学校の接続関係を表したものであり、本委員会向けの資料である。市民説明会等でこれを前面に出して説明するものではない。ただし、議会等から求めがあれば、補足資料として示す可能性はある。
- また、教育委員会で策定した学校配置素案の考え方について、改めて説明するが、このたび発表された最新の社人研推計の数値が前回より上振れしていること、また、資料5にあるように、住民基本台帳の情報による推計が人口ビジョンの目標とそれほど乖離していないことなどから、2040年の児童生徒数は、現実的には人口ビジョン目標と社人研推計の範囲内で推移するであろうと見通しているところである。

(2) 市民説明会の開催等について

市民説明会の開催日程および市民意見の聞き取り方法等について、事務局から説明を行った。

〔委員からの意見等〕

- 委員 今年度の市民説明会の開始時刻が午後6時30分からとなっているが、昨年度の市民説明会時のアンケートには時間設定について何か意見があったものか。
- 事務局 昨年度のアンケートには、開催時間についてのご意見は特になかった。
- 事務局 午後6時30分の開始というのが最適な時間設定であるかについては様々な考え方があると思うが、昨年度は特に大きな問題がなかったこともあり、今年度もこの時間としたものである。昨年度は全体で250人ほどの参加者数であったが、今年度はさらに多くの市民に参加していただけるよう、周知方法や資料配布を工夫することとしている。
- 委員 開始時刻はもう少し遅くする考えもあるのではないか。また、土曜日の開催が1回あるが、日曜日の開催をもう1回設けてもよいのではないか。
- 委員 最後の市民説明会は8月18日であるが、お盆が明けてすぐの土曜日であり、参加者が多くないかもしれない。土曜日の開催をもう少し早い時期にしてもよいのではないか。
- 事務局 開始時刻や開催回数について、会場の空き状況なども勘案しながら検討していきたい。
- 委員長 本日の委員の意見を踏まえ、学校配置素案の表現と市民説明会の開催について、事務局で検討していただきたい。

(3) その他

(協議事項等なし)

5 閉 会

以 上